作成（2024 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	八百板 季穂
所属機関名	工学部建築学科
職位	准教授
在籍年	8 年

教育の責任

建築学科に所属し、主たる教育活動は建築計画分野の科目（都市計画、ハウジング、インテリア・色彩学、設計演習Ⅰ～Ⅳ）の担当及びゼミ生の研究支援を行い、研究活動においては「歴史的建造物の保存と活用」を専門に行なっている。その他、建築歴史文化研究センター兼務研究員およびグローバルセンター構成員も担っている。

教育の理念

地域の個性や魅力を文化遺産という観点から再発見し、活用することで、国内だけでなく途上国地域の活性化に貢献できる人材を育成したい。そのような貢献を果たせるようになるためには、単に建築の歴史や様式の知識を蓄積することに留まらず、建築をとりまく生活や文化、自然といった観点から建築と都市を読みとく力を身につけ、それを将来の建築設計や地域課題の解決に応用する力が必要である。

それを達成するために、座学で基礎的な知識を講義した上で、ゼミ活動や学外演習を通じて地域社会の現実的な課題に向き合い、専門的な知識やスキルをいかして課題解決に取り組む場を提供したい。

教育の方法・方針

座学では、歴史的建造物の保存と活用に関する基礎的な知識と考え方を講義した上で地域の取組事例を紹介することで、基礎と応用についての知識を身につけてもらい。さらに、ゼミ活動や大学院での授業を通じて実際の地域での建築調査や住民とコミュニケーションをとりながら専門調査の意義などを理解し、現場での応用力を身につけてもらいたいと考えている。

【都市計画】

方針：幅広い知識を身につけると同時に、現代の都市・農村が抱える課題を理解する

・岡山県や岡山市内の事例をとりあげることで学生の興味や関心につなげることを心がけ、具体的かつ身近な事例で都市計画法や建築基準法の枠組みや適用事例を示すことで、実感をもって理解できるようにこころがける

・文字だけでは理解が難しい法律の内容等は、図や写真を多用し、具体的にイメージしやすく、分かりやすい内容になるように心がけている

【特別研究】

方針：調査を通じて歴史的建造物に対する基本的な調査スキルを身につけた上で、地域住民とのコミュニケーションから地域課題を理解し、専門的なアプローチからどのように課題解決に貢献できるのかを経験してもらう

・建築実測調査から、平面図・断面図・配置図といった基本的な図面作成能力と、伝統的な建築の空間構成および構造を捉えるスキルが身につくように指導する

・建築の痕跡調査から、復原手法と考え方についての理解を促進する

・地域住民との交流や発表会を通じて、地域が抱える課題に対して専門分野がどのように貢献できるのかを経験してもらう場を提供する

教育の成果

・座学講義のなかで単独で担当を務める「都市計画」の講義では、2023 年アンケート結果にばらつきがある。回答者数が極端に少ない年があるため、授業アンケートに回答する時間を適切に設けた上で、アンケート結果などを参考に改善していく。

・特別研究の指導では、これまでにゼミ学生が卒業設計最優秀賞（計画分野）や学外の研究発表会における優秀ポスター賞を受賞してきていることから、卒業論文を執筆するための目的設定、分析、考察能力を身につけるための支援ができていると考える。
今後の目標
・座学では、各回の授業コメント・質問シートを配布し、分かりにくかった部分に対するフォローを行うことで、理解度の向上をはかる。 ・学生が興味を持ちやすい身近な事例を用いた説明をより多く取り入れる。 ・特別研究の指導では、可能な限り現実の地域社会における実践の場を提供し、地域課題に向き合いつつ、大学で学んだ知識を応用する機会を設ける。
根拠資料
・「都市計画」授業アンケート（2023 年度、2024 年度） ・2020 年度 特別研究 卒業論文最優秀賞（計画分野） ・2021 年度 特別研究 卒業論文最優秀賞（計画分野） ・2022 年度 特別研究 卒業論文最優秀賞（計画分野） ・2024 年度 特別研究 卒業設計 審査員特別賞受賞 ・奈良文化財研究所 文化的研究会（第 12 回／2024.11.16）ポスターセッション 最優秀ポスター賞：岡山理科大学工学部建築学科 4 年、工学研究科建築学専攻 2 年、建築歴史文化研究センター　江面嗣人、理工学研究科　八百板季穂